

中部地区 公民館だより

第142号

令和4年12月1日発行

上山市中部地区公民館

上山市十日町4番11号

TEL 673-2588

FAX 673-0379

・第2回公民館大掃除・

公民館内外 隅々までぴかぴか



11月5日(土)、公民館利用団体の方に協力いただき、清掃活動を行いました。5月の大掃除から半年が経ち、汚れの目立つ床磨きを中心に、サッシの溝、風除室の玄関マット、駐車場の草むしりなど、大勢の手できれいにしていただきました。「床や壁の傷が多くて驚いた。机や椅子を動かすときは皆で気をつけらんなねな」、「掃除は大変だけど、きれいになると気持ちよく公民館使えるね」など、“自分たちの公民館”を意識した声を聞くことができました。いつまでも公民館が良い状態で利用できるよう、皆で大切にしていかなければならないと再認識しました。

協力団体の方には、早朝から清掃に参加いただき、大変ありがとうございました。



非日常的な空間を体験 ヨガ教室 1回目

11月22日(火)、ヨガインストラクターの鏡実優先生を講師に初心者向けのヨガ教室を開催しました。ヨガ教室は3年目となり、新しい方の参加を増やそうと、「身体硬いから駄目だ」と渋る男性陣にも体験していただきました。無理のない動きから始まり柔軟を求められるポーズでは「痛い、無理だ」と言いながら初めてのヨガを楽しむ姿が見られました。身体がぽかぽか温まったところに、「ヨガっぽいポーズもやってみましょう」と鏡先生を見習い挑戦しましたが、同じポーズができる訳もなく、笑いがでる場面もありました。鏡先生の優しい声に癒されながら呼吸法もご指導いただき、心身ともに軽くなりました。



第4回街歩きウォーキング



羽前上ノ山四十八地藏
菩薩第十番川向出張



八日町
美咲町周辺

美咲町建武二年三尊板碑



今年度4回目のウォーキングは、10月21日（金）中部地区地区会長会の大津会長（八日町2）にガイドを務めていただき、『八日町、美咲町周辺の散策』と題し、八日町の地藏菩薩、宮川水管橋などを巡りました。それぞれの由来や歴史を詳しく説明していただきました。

「天気が良く最高、案内人も良かった」、「気持ちよく廻ることが出来、話も興味深く聞きました」などの感想をいただきました。

参加者募集

ヨガ教室 2回目

日 時 12月13日(火) 午前10時00分から
場 所 中部地区公民館 多目的ホール
講 師 ヨガインストラクター 鏡 実優先生
対 象 中部地区在住の方
参 加 費 無料
持 ち 物 マスク着用、飲み物
持っている方はヨガマット
申込締切 12月7日(水)



健康ポイント対象事業 20P

ケーキつくり教室

日 時 12月17日(土) 午後1時30分から
場 所 中部地区公民館 調理室
講 師 果樹工房 YOSHIDA 吉田安俊先生
対 象 中部地区在住の方
材 料 費 1,000 円
持 ち 物 マスク着用、エプロン、三角巾
募 集 7組程度(人数になり次第締切ります)
*親子、夫婦、祖父母と孫など家族での
参加もお待ちしています
申込締切 12月12日(月)



以前、つくったケーキです

参加者募集

しめ飾りづくり

日 時 12月22日(木) 午前9時30分から
 場 所 中部地区公民館 多目的ホール
 講 師 小松正明さん
 対 象 中部地区在住の方
 材 料 費 1ヶに付き 200円
 募集人数 15人程度
 持 ち 物 マスク着用、はさみ、定規、セロテープ、
 千枚通し(目打ち)、洗濯ばさみ2ヶ
 南天の実など飾りたいものがあれば
 お持ちください
 そ の 他 縄ないができる服装
 申込締切 12月16日(金)



シャフルボード

出前スポーツ

日 時 12月23日(金) 午前10時から
 場 所 中部地区公民館 多目的ホール
 講 師 NPO 法人 かみのやまスポーツクラブ
 対 象 中部地区在住の方
 参 加 費 無料
 持 ち 物 マスク着用、屋内シューズ
 飲み物
 申込締切 12月16日(金)



健康ポイント対象事業 20P

12月の予定

9日(金) はこべの会学習会
 13日(火) ヨガ教室 ②
 16日(金) 運営協議会
 17日(土) ケーキづくり
 21日(水) はこべの会 サロン
 22日(木) しめ飾りづくり
 23日(金) 出前スポーツ シャフルボード
 28日(水) ワックス掛けのため貸館なし

29日(木)から1月3日(火)まで
 公民館は休みになります



12月の百歳体操

1、8、15日 午前10時から
 22日 午後1時30分から

はこべの会 サロン

日 時 12月21日(水)
 午前10時から
 午前11時
 会 費 無料

『金森家』(4)「高山藩金森侯転封～余録2(飛騨高山の山資源と現代)」

佐渡金山の最盛期は江戸時代初期元和から寛永年間(1624～1643)にかけて金が1年間に400kg、銀は1万貫(37.5トン)上納されました。当時佐渡金山は世界最大級の「慶長金銀」^{すじきん はいしきん}、資材の重要な鉱山で、製錬された筋金と灰吹銀を幕府金座・銀座が鑄造しました。しかし中期以降佐渡鉱山は衰微しました。幕府は元禄八年(1695)金貨・銀貨の質を落として数量を増やし「元禄の改鑄」財政難を切りぬけようとしたが、鉱山資源の枯渇が続き元禄八年(1695)鉱山採掘を全国に奨励します。金銀貨改鑄と古金銀混用布令は一体の関係です。

さてその頃の飛騨高山の話です。現在の岐阜県は北側が飛騨で南が美濃国で、「飛山濃水」^{ひさんのうすい}と呼ばれ、美濃は森林材水場の国、飛騨は山岳に象徴されて「山の飛騨国」^{もときりがせき}と言われました。飛騨高山は森林の宝庫で飛騨の元伐稼として高山藩表高に比べ多く、金森氏先祖の金森長近氏は関ヶ原の戦でより多くの軍役を負担することができました。幕藩体制になってからも高山藩は伐採材木を長良川や飛騨川などから名古屋・江戸に供給しました。また、地上資源に比べて目立たないのですが、高山藩を支えた金・銀の鉱山は16世紀末から飛騨地方で開発が進められ、鉱山開発者へ金3,000両を貸し付けして採掘を援助しています。

次の宝永五年(1708)現飛騨市増谷銀山(神岡町東茂住)で採掘が始まり1710年に銀7貫57匁8分、翌1711年に銀3貫228匁を採掘上納しました。1695年の「鉱山奨励」以降奨励触書が繰り返され、宝暦十三年(1763)3月には「諸国銅山、出銅これある折り御勘定所へ書付け差し出すべく候」と督促されています。高山町の居住者は広域にわたって鉱山に関わって開発技量は群を抜き、金森氏城下町は整備されて一大集落となっていました。飛騨国内の鉱山20カ所のうち明和四年(1767)天領となった高山代官所の記録「金銀銅鉛山問歩(坑道)箇所附帳」に、金山7、銀山6、銅山6、鉛山1と記録されているとのこと。

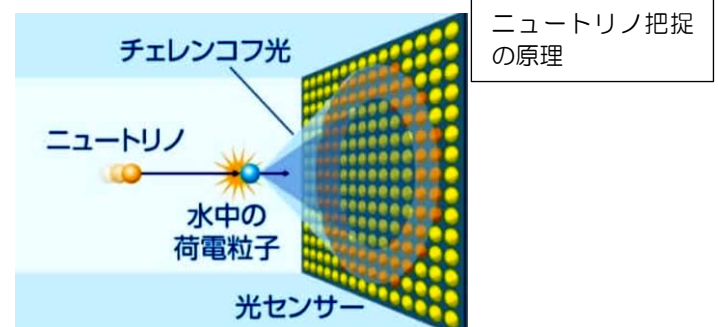
高山藩は江戸初期には森林資源が藩政を豊かに栄えさせ、加えて鉱山資源への期待から幕府は飛騨高山領の金森頼岩侯を上山に転封させて天領化し、直接鉱山運営の危険を冒さずに地下

資源を開発させて財政立て直しを図ったと考えられることが出来ます。

高山天領地は加賀藩在番元禄五年(1692)に任せると城を維持出来なくなり「高山城破却」元禄八年(1695)となりました。上山への金森侯封入以前に「上山城破却」元禄五年(1692)は奥州各藩の軍略城「藩塀」の役割がなくなった意味合いとともに金森侯への五代將軍綱吉と側用人柳沢吉保の少なくない思惑もあったのかもしれない。

なお、奥飛騨の神岡鉱山跡地(山の掘削技術伝承)が、後代日本の宇宙物理学に貢献することになりました。カミオカンデ(地下千m)、スーパーカミオカンデ、ハイパーカミオカンデという宇宙からやってくるニュートリノの観測施設として、2022年小柴昌俊教授の超新星爆発からのニュートリノ観測、続いて2015年梶田隆章教授は質量あるニュートリノ振動研究でノーベル物理学賞の受賞に結実しました。

深め足りないことが多々ありますが、飛騨高山の先人の営みが後代の科学の発展に寄与したことを地域史エピソードとして記憶していいことなので補記して金森侯のことを終わります。



参考文献:「金森家関係文集」③⑥、「18世紀飛騨地域における鉱物資源開発の展開」(原田洋一郎)、HP「カミオカンデ」を参照しました。